原子力を県民が監視して利用することこそ
エネルギー問題解決のための処方箋

青森山田高等学校
普通科　キャリアアップコース　１年　内村　愛可

今年の夏の暑さは異常だった。各地で熱中症アラートが続き、青森でも東京大阪並みの気温が襲い、リンゴ農家やホタテの養殖にも打撃を与えている。暑さだけではない、今年の梅雨時には九州四国中国地方や秋田県などでは、想定外の洪水や土砂崩れによる被災が相次いだ。これらの異常気象は、地球温暖化が少なからず影響していることは環境省や国連の報告でも明らかである。

よって地球温暖化を抑制しなければ持続可能な世界をつくり上げることはできない。しかし、である。一方で私たちの便利で快適な生活を維持するためには電気やガスなどのエネルギーが絶対に必要である。特に私が住む青森県は、冬季間の暖房や住民の足としての乗用車の燃料に、農業での作物管理や家畜の飼育にも多大なエネルギーを必要としており、その 70%以上は化石燃料から、残りを電力で得ている（※１）。

便利な生活には電気などのエネルギーは必要だが化石燃料に依存しすぎると温暖化が進行する。この状況を打開するために原子力発電や核燃料の再利用サイクル施設は必要であるかを学校の生物基礎の時間に調べ学習をしてみて、私の考えは「絶対に必要」である。

第一に、日本はエネルギー自給率が現状 12.1%である（※２）。エネルギーの大部分は化石燃料による火力発電に頼り、様々な燃料も化石燃料に依存している。この現状に対して自然エネルギーの活用は進んでいるとはいえ、まだまだ費用面や環境への影響の問題もあり一気に進められるわけではない。

第二に、日本には再稼働や新規の原子力発電所が全体の半分以上を占めている（※３）。さらに六ヶ所村にある核燃料サイクル施設で核燃料がリサイクルされており、東通原子力発電所の発電力などを合わせて考えても日本のエネルギー自給に大きな役割を果たしているといえる。しかし、ここで問題になるのが安全性である。東日本大震災で原子力の安全性は確かに大きな不安を抱えた。しかし大切なのは、私たち青森県民が安全性についての知識をしっかりと持ち青森県などの行政機関とともに次のことを行うことだと考える。それは、安全性についてのデータを政府や日本原燃や電力会社に細かくかつ分かりやすく提供してもらうことによって、常に監視することである。それが地元に住むものができることであると同時に雇用の創出を含めた関連産業の発展につながると思う。

おりしも福島第一原子力発電所の処理水が安全基準を下回っているので、海

洋に放出することが始まった。この問題も処理水がたまり続けることで逆に土地利用や安全性の懸念などがあるために行われている。地元の漁民の方のことを真剣に考えるなら、私たちも福島の人とともに政府や電力会社のデータを監視して、福島の水産物が安全であることを確認し、風評被害に苦しまないようにするなど積極的に安全性に関心を持ち、原子力関連自治体の人々と監視の輪を広げて安全に原子力発電を続けながら、日本のエネルギーがカーボンニュートラルに進めるようにすることが大切だと考える。また、そのことによって青森県の化石燃料依存を50%以下にすることが現実になると考える（※１）。

エネルギーは必要なものである。だからこそ、使う県民一人一人がエネルギー源について関心を持つことが大切なのだと思う。抱える問題を発生させるのも解決するのも私たちの行動次第で決まるからである。手始めに原子力モニタリングを見ること。次に日々の暮らしの無駄を自分で管理することから始めたい。

◎出典・参考

（※１）青森県 青森県再生可能エネルギー産業振興ポータルサイト
新たな「青森県エネルギー産業振興戦略」の策定
https://www.aomori saiene.jp/efforts/

（※２）資源エネルギー庁 日本のエネルギー２０２２年度版「エネルギーの今を知る１０の質問」
https://www.enecho.meti.go.jp/about/pomphlet/energy/ 2022/001/

（※３）原子力規制委員会 原子力発電所の現在の運転状況
https://www.nra.go.jp/ jimusho/unten_jokyo.html